

会長あいさつ



南アルプス市自治会連合会
会長 三枝 守和

平素より自治会連合会並びに自治会活動にご理解とご支援を賜り、深く感謝申し上げます。3年間、新型コロナウイルスに惑わされ自治会の本来の活動が多くの制約や制限を受けました。

自治会は、住民同士の親睦、高齢者の見守りや、子供の安全対策等の活動、生活環境の維持等、行政と連携し地域の課題や問題の解決を図り、住みよいまちづくりを進める中心的な役割を担っております。

しかし、自治会を取り巻く環境はコロナ禍以前にも増して変化しており、少子高齢化や住民ニーズの多様化により、自治会未加入世帯が増加し、住民自治機能の低下や担い手不足の原因になっております。

今後、自治会は地域住民が主体となって、地域の課題に解決策を模索し実践していく、住民自治組織の一層の飛躍を願っております。

南アルプス市自治会連合会は行政と連携を密にして自治会活動の一助となり協力を惜しみません。

今後ともご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

土砂災害防災訓練が実施されました

【櫛形西地区】 2022.6.12

梅雨前線の影響による豪雨に伴う土砂災害発生を想定し、災害から身を守るためにはどうしたら良いかを前提に避難要領や情報収集、伝達の方法の確認、感染症対策を考慮した中で、いざという時のために訓練が行われ、防災関係機関および地域住民が一体となって、防災意識の高揚を図りました。

いつ起こるか分からない災害は、個人や家族だけで対応するには限界があり、危険も伴います。救命救助活動は各自治会の自主防災組織が中心となり地域ぐるみで協力し組織的に行動することで被害を最小限に抑えることができます。



南アルプス市自治会連合会 専門委員会の活動報告

令和3年度～令和4年度にかけて各専門委員会にて調査研究が行われました。

第1 専門委員会 「南アルプス市消防団の在り方に関する調査研究について」

大きな災害が頻発する日本では、地域の消防団は地域防災の中核として欠くことのできない存在となっています。しかしながら社会構造の変化により若者の勤務形態も変化し、消防団員もサラリーマンや勤め先が市外の人も多く火災等の発生時に出動できない状況です。

また、消防団員の確保は年を追うごとに厳しさを増し、自治会役員が消防団員として入団して維持している現状です。

消防団の定員数の見直しや分団の再編についても提言し、各自治会もその取り組みに協力していきます。



第2 専門委員会 「自治会での地域支えあい協議体への取り組みの調査研究について」

南アルプス市でも高齢化と人口減少が進む中で介護保険サービスでは対応できない生活支援も発生しています。地域の実情に応じて自治会が中心となって住民の困りごとを解決するために地域の経験豊富な人やボランティア活動に積極的な人材を活用していくことが重要となってきます。

自治会で把握している人材は市へ情報提供を行い市関係機関と協力関係を築いていきます。住民主体の助けあい活動を行う地域支えあい協議体の積極的な活動に自治会も協力していきます。



第3 専門委員会 「自治会の加入促進について」

安心・安全なまちづくりを進めていくために自治会の果たす役割は大きく、多くの活動が自治会により展開され、住みよいまちづくりが行われています。

しかし、昨今の自治会を取り巻く環境は少子高齢化や核家族化、価値観の多様化などにより自治会加入率は減少傾向となっています。自治会役員が自治会未加入者に対して加入促進を行うにあたり自治会加入促進ハンドブックの改訂とダイジェスト版を作成しました。

今後は各自治会へのハンドブックなどの配布や市ホームページへの掲載を行い、自治会加入促進をさらに進めていきます。

